

高山赤十字病院 広報誌

Vol.47

平成30年
新春号

日赤たいむ

謹
賀
新
年



- 新年のご挨拶
- クリーンルームについて
- 大規模災害訓練を実施しました
- ニューヨークで行われた国際会議で演題発表を行いました
- 放射線治療の充実
- 第20回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会を開催して
- 新任医師の紹介
- 栄養課おすすめ!簡単レシピ

新年のご挨拶

高山赤十字病院
病院長 棚橋 忍



新年あけましておめでとうございます。2018年(平成30年)が、患者さん、地域住民の皆様にとって良い年でありますよう祈念申し上げます。

高山赤十字病院は平成29年11月に赤十字病院として95周年を迎えました。長きにわたり総合病院としての機能を果たしてこられたのも患者さんをはじめ地域の皆様のご支援のお陰と感謝申し上げます。当院は岐阜県北部の医療の最後の砦として、日々の診療、保健活動、災害・救護医療をこれからも継続して行い、「ふるさとを守る医療の確保」を目指し、5年後の100周年

を迎えたいと考えています。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて、医療改革は待たなしで進んでおります。国は今の医療保険制度を今後も維持するため、急性期病床を減らし、回復期病床を増やそうと誘導しています。今後病院の機能分化、医療・介護連携、在宅医療の推進を図っていきます。当院は既に回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟を稼働させ対応してきましたが、地域医療に配慮した改革になるよう願っています。

来年4月より新専門医制度が始まります。現在臨床研修修了予定者との各専門医領域学会との第一次マッチングが終了していますが、予想通り都会でのマッチングが多いようです。都会から遠く離れた当院は専門領域の指導医がそろっていないため、専門研修を受ける医師が派遣されないことも懸念しています。新臨床研修制度が始

まった時のような地域医療崩壊が起こらなければと懸念しています。

昨年末に2病棟6階に2床ですが、クリーンルームを稼働させました。この地域の白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の血液悪性腫瘍の化学療法を安全に行うための部屋です。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、現在は血液のがん、乳がん治療、治癒をめざした放射線治療に力を入れています。2人に1人が癌になるとの統計がありますが、癌になっても十分な医療を住みなれた土地で提供できるよう努めてまいります。

今後とも、一世期を超えて当地で医療を確保し、ふるさとを守っていく所存です。職員一同本年も頑張っ医療を提供して参ります。ご支援をお願い申し上げます。皆様方のご多幸を祈念申し上げます。

クリーンルームについて



1.血液疾患について

血液内科は、白血病、赤血球、血小板や凝固の異常を診察します。比較的多い疾患として、白血病、骨髄異形性症候群、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などがあります。

2.クリーンルームについて

急性白血病などの強力な化学療法を受ける患者さんは、白血球が高度に減少するため免疫力が低下します。このような免疫低下状態においては、空中に浮遊するアスペルギルスなどの真菌(かび)による肺炎の危険性が高まります。このような感染症を予防するため、HEPAフィルターを使って空気が清浄化されるように設計された部屋がクリーンルームです。

3.飛騨における治療について

これまで高山赤十字病院における血液疾患の治療は、造血幹細胞移植

を除いて行ってきましたが、クリーンルームができたことで、自己や血縁者間の造血幹細胞移植を行えるよう準備中です。

※クリーンルームは、垂直層流方式という換気方法により、頭上の天井から給気された清浄な空気が、足元の側壁下の吸込口より吸い込まれる形で流れており、ベッド上を常にISOクラス5(F.S. 209D相当 クラス100、1㎡中に含まれる0.1μm以上の微粒子数が100,000個/㎡以下)に保つことができます。

大規模災害訓練を実施しました



当院は、平成8年に災害拠点病院に指定されており、毎年大規模災害の発生に備えた訓練を実施しています。今年度は10月8日(日)に大規模災害訓練を実施し、3連休の中での実施にもかかわらず、100名以上の職員が参加しました。

今年の訓練は、当院だけではなく、岐阜県の各災害拠点病院や関係医療機関も同時に訓練を実施し、中部ブ

ロック9県からDMAT(災害派遣医療チーム)も参加するなど、非常に大規模な訓練となりました。

当院での主な訓練内容は、下呂・阿寺断層帯を震源とした大規模地震が発生し、高山市内も震度6または震度7を観測したという想定のもと、他県から応援として駆けつけたDMATと協働して多数傷病者の対応にあたるというものでした。

当院では、今までさまざまな形の訓練を実施してきましたが、他の医療機関から応援を受ける(=受援)ということは初めてであり、指揮系統や体制が異なることで、訓練が始まる前までは不安な面も多くありました。ですが、実際に訓練が始まると、医師や看護師をはじめ、コミュニケーションをとりながら素早く行動し、運ばれてくる患者役の方を次々に処置していました。



今後も、支援をする側としての備えだけではなく、支援を受ける側の備えについても検討し、飛騨地域における医療救護体制の維持とさらなる向上に向けて努力していきます。

ニューヨークで行われた第38回看護と医療に関する国際会議 (38th International Conference on Nursing and Healthcare)で 演題発表を行いました



平成29年10月16日～18日にニューヨークで行われた第38回看護と医療に関する国際会議より依頼を受け、当院副院長 白子隆志医師と第一内科部長 白子順子医師が演題

発表を行ってきました。

本会議は、健康格差やその他幅広い話題に関連した健康の実践、管理、教育の進歩を発見することを目的として開催され

ており、第38回の今回は、「より良い医療への可能性を探る」をテーマに開催されました。

白子隆志医師が世界的にも珍しい「御嶽山の噴火による噴石外傷の治

療経験」について、白子順子医師が「ギリシャ北部のシリア難民への医療救援活動」についてそれぞれ発表を行いました。



放射線治療の充実



1.放射線治療とは

さまざまな放射線を用いて病気(主にがん)を治療する方法。使われる放射線には、X線(エックス線)、電子線、ガンマ線、粒子線などがあり、高山赤十字病院ではX線と電子線を使用した治療を行っています。放射線治療は、手術、薬物療法と並ぶがん3大治療法ですが、日本での適応が遅れています。その原因の一つが医学物理士の不足です。乳がん、前立腺がん、肺がん、子宮頸がんなど放射線治療が有効ながんが増え、高齢化が進んだ現在、放射線治療の必要性が益々増えています。

2.がん診療連携拠点病院として

当院放射線治療は、2014年4月に治療装置を更新し4年が経過しました。県内の放射線治療施設は岐阜地区に集中しており、飛騨地域唯一の施設として、年間200名の治療を行っています。また厚生労働省は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院を400箇所指定しています(平成29年4月1日現在)。指定された病院は、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行っており、高山赤十字病院もその拠点病院の一つとなっています。

3.医学物理士の必要性

がん診療連携拠点病院として指定されるための条件の一つに放射線治療分野での品質管理、治療線量の管理と校正などを専門に行う医学物理士が必要とされます。医学物理士が専

門的に装置の品質管理や治療線量の管理、校正を行うことにより、放射線治療の安全性と放射線治療成績が向上し、国民の健康増進に寄与します。

4.放射線治療では チーム医療が大切

医師、看護師、医学物理士、診療放射線技師と協働し、高度な放射線診断、とくにがんの放射線治療を安全かつ適切に行います。



参考文献

- 1.2.3.4、一般財団法人 医学物理士認定機構『医学物理士について』
- 2、厚生労働省 がん診療拠点病院

第20回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会を開催して



晩秋深まる11月18日に第20回日本救急医学会中部地方会学術集会を高山市民文化会館で開催しました。本学会は約30年の歴史を持ち、中部9県から救急医療にかかわる職種が集い、救急医療の研究発表を行いました。

今回、「地域の救急と災害を担う人材育成」をテーマに、各地から約650名の医師・看護師・救急隊員・薬剤師・診療放射線技師が高山で一堂に会し、熱い討論を行うことができました。一般的に大学病院が本学会を主催することが多いにもかかわらず、地方病院である高山赤十字病院が主催できたことは、大変栄誉なことでもあり関係者皆様のご協力の賜物と感謝します。教育セミナーや一般演題の他、救急医療を存続するために各地域で苦勞されたり工夫されていること、各職種の人材育成についてシンポジウムで発表

していただき、貴重な情報を共有することができました。特別講演では、高山を代表するパン屋さんであるトランブルの成瀬正氏に「次世代のパン職人の育成」と題してお話をさせていただきました。パン作りも我々医療現場と同じようにコミュニケーションを大切にしながら人材育成をすること、高山からでも日本・世界に発信できる人材育成をすることが可能であることを教えていただきました。

今後も飛騨地域の救急医療存続のために地域住民の方々のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新任医師の紹介



小児科

熊谷 千紗 (くまがい ちさ)

中濃厚生病院から来ました小児科の熊谷千紗と申します。
以前、高山赤十字病院で初期研修をさせていただき、地元である高山で再び勤務させていただくことになりました。お役に立てるよう精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



脳神経外科

熊谷 信利 (くまがい のぶとし)

10月より高山赤十字病院に赴任させていただきました脳神経外科の熊谷信利です。
研修医として働かせていただいた高山白赤に1年半ぶりにもう一度赴任となりました。
高山の医療に貢献できるよう院内のスタッフの方々とは協力しながら精一杯診療にあたらせていただきますので宜しくお願い致します。



婦人科

桑山 太郎 (くわやま たろう)

はじめまして。産婦人科の桑山と申します。
この地で生まれ育ち時を得て高山市内の病院に赴任することとなりました。地元の皆様何卒よろしくお願いいたします。



内科

手塚 隆一 (てづか りゅういち)

岐阜大学病院から来ました、手塚と申します。
消化器をはじめとして、内科を診させていただきます。少しでも早く慣れ、高山の医療に貢献できるように日々努力していきたいと思っています。何卒よろしくお願いいたします。



循環器内科

堀尾 俊太郎 (ほりお しゅんたろう)

岐阜県総合医療センターから来ました循環器内科の堀尾と申します。
高山の医療に貢献させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



栄養課おすすめ! 簡単レシピ

ごぼうと桜えびのきんぴら (一人分68kcal)

材料(1人分)

- ごぼう 1/2本
- 桜えび 大さじ2
- ごま油 小さじ1
- みりん 大さじ1
- しょうゆ 小さじ1

作り方

- ①ごぼうは斜め薄切りにして、水に約5分さらす。
- ②フライパンにごま油を中火で熱し、ごぼうを入れてさっと炒める。油がまわったら桜えび、みりん、しょうゆを加え、汁けがなくなるまで2~3分炒める。



外来初診担当医一覧表

※担当医は都合により変更になる事がございますのでご了承ください(平成30年1月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科	消化器	高田 淳	今井 奨	浮田 雅人	白子 順子 田口 大輔	手塚 隆一
	呼吸器	—————	細江 敦典	川上 剛	—————	西尾 優
	内分泌	今泉 俊則	柴田 敏朗	—————	棚橋 忍	藤澤 太郎
	血液	—————	—————	福野 賢二	—————	—————
循環器内科		畑佐 匡紀	休診	堀部 永俊	休診	木野村 祐二郎
小児科		山岸 篤至(第3以外) 川尻 美和(第3のみ)	臼井 新治 (受付10:30まで)	山岸 篤至	山岸 篤至	川尻 美和
産婦人科		桑原 万友香	休診(手術)	桑山 太郎	休診	矢野 竜一郎
外科		井川 愛子	休診(手術)	八幡 和憲	足立 尊仁	白子 隆志
整形外科		前田 雅人	岩田 崇裕	休診(手術)	光石 直史	小池 玲(1,3,5) 齊藤 満(2,4)
脳神経外科		加藤 雅康	休診(手術)	熊谷 信利	竹中 勝信	野中 裕康
泌尿器科		小島 圭太郎	柚原 一哉	亀山 紘司	休診(手術)	小島 圭太郎(1,3,5) 亀山 紘司(2,4)
耳鼻咽喉科		安藤 健一	川浦 僚	高 阜 隆	休診(手術)	安藤 健一(10時~) 高 阜 隆 川浦 僚
眼科		前田 美保子 (受付10:30まで) (診察10:30から)	永井 博之	前田 美保子	永井 博之	永井 博之
皮膚科		市橋 直樹	市橋 直樹	市橋 直樹	市橋 直樹	市橋 直樹
心療内科(予約再診)		—————	—————	—————	—————	—————
歯科口腔外科		今井 努	大久保 恒正	大久保 恒正 (手術日)	今井 努	休診(手術)
放射線科		予 約	休診	予 約	休診	予 約(不定期)

※再診は予約制ですので、ご了承ください

外来のご案内

診療受付時間 午前8:30から午前11:00まで
 診療開始時間 午前9:00
 休診日 土曜、日曜、祝祭日、年末年始(12月29日~1月3日)、
 日本赤十字社創立記念日(5月1日)
※ただし、救急の場合は24時間対応しております。

ニッセイイシ ヨヤク

●電話予約センター ☎0120-214-489 受付時間:午前8:30から午後4:00まで
※ただし初診の電話予約には紹介状が必要です。紹介状のない方は、当日受付窓口へお越し下さい。

初診の方 診察申込票に必要事項をご記入の上保険証、紹介状等を添えて新患者受付へお出し下さい。

予約の方 予約票の時間に当たって直接受診科へお越し下さい。

11月1日より診療受付時間、電話予約センターが午前8:30からに変更になります。

「飛騨O₂の会」 会のご案内

当院では、在宅酸素療法患者さんの患者会「飛騨O₂の会」を発足し、活動しています。
 病気に対する不安や意見を交換する会合や、交流の場を開くことによって、患者さん同士の親睦を図ることを目的に活動しています。

●活動:患者会総会、小旅行、語る会、親睦会、講演会、レクリエーション
(活動時は当院の医師、理学療法士、看護師、栄養士などが参加します)

●会費:年間1,000円

なお、会員は当院通院中の患者さんに限らせていただいております。入会の申し込みや詳しく聞いてみたいと思われる方は、健康相談室のスタッフにお問い合わせ下さい。



日本赤十字社

平成30年新春号

発行 行:高山赤十字病院 岐阜県高山市天満町3-11
 発行責任者:広報委員会

TEL/0577-32-1111(代) FAX/0577-34-4155

URL: http://www.takayama.jrc.or.jp/